

ビス提供を可能としている(図表2-3-19)。

【NTTデータ】My Pallete(QRコードを活用した送金サービス)

2018年9月には、NTTデータが金融機関向けアプリ「My Pallete」でQRコードを使った送金機能の提供を開始した。これは金融機関向けのアプリでQRコードを活用した送金を可能にした日本で初めてのサービスとなった。従来の振り込みで必要だった振込先の口座番号の確認や画面への手入力を、QRコード等のやりとりで簡単に送金できるようにしたことで、チャージや換金が不要という利点を持つ。金融機関の口座間で日本円を直接やりとりするため、他の決済手段では必要なチャージの手間や手数料が不要となった。また送金の受取側も日本円での受け取りとなるため、換金の手間や手数料も不要で、用途を制限されることもない点が特徴である。

【NTTドコモ・三菱UFJ銀行】デジタル口座サービス「dスマートバンク」

2022年12月には、三菱UFJ銀行とNTTドコモが、共同開発したデジタル口座サービス「dスマートバンク」の提供を開始した。dスマートバンクの特徴は、利便性、利得性、安心・安全の3つにある。専用アプリでは、口座残高や入金明細の確認ができるだけでなく、口座残高を生活資金用途の「おサイフ」と貯蓄用途の「貯金箱」に分けて管理することが可能で、利用者の無理のない貯蓄を支援する(2026年にサービス提供終了予定)。

【NTTデータ】モバイルレジ(地方税統一QRコード対応のスマートフォン決済サービス)

2023年4月からは、NTTデータが、提供中のスマートフォンを用いたバーコード読取型決済サービス「モバイル

レジ」で、地方税統一QRコードへの対応を開始した。これにより、「モバイルレジ」を利用する納税者は、国内1,788すべての地方公共団体の税納付を、クレジットカードやインターネットバンキングを通じて実施できるようになった。

このサービスの特徴は、納税者が専用アプリのダウンロードや初期登録を必要としない点にある。納付書に記載された統一QRを「モバイルレジ」支払い用ウェブサイトから、スマートフォンのカメラで読み取るだけで、支払いまでの手続きが完了する。主要なクレジットカードと約1,000行の金融機関口座決済に対応しており、QRコード決済サービスのような事前チャージなどの手間もなく納付できる。

さらに、「モバイルレジ」の上限額は統一QRの開始により1,000万円未満までに引き上げられた。これは従来のコンビニ収納用バーコードを活用した方式での取扱金額の上限が30万円だったことと比較すると、大幅な利便性向上といえる。税の納付額は通常の物販等と比較してやや高額になることから、クレジットカード決済や金融機関口座決済の利用ニーズも高いと想定されている。

【NTTドコモ】d払い

NTTドコモは2018年4月、街の店舗での支払いに対応した新たなスマホ決済サービス「d払い」の提供を開始した。このサービスは、従来ネットでの支払いで多くの利用者から支持を得ていた電話料金合算払いの仕組みを、実店舗での決済にも拡大したものである。スマートフォンに表示させたバーコードやQRコードを使って決済を行う仕組みは、店舗側の導入負担を最小限に抑えつつ、利用者の利便性を高めることにつながった(図表2-3-20)。

「d払い」の特徴的な点は、支払い方法の多様性にある。毎月の携帯電話料金との合算払いに加え、クレジットカード払いやdポイントの利用も可能となっている。特にdポイントについては、実店舗での決済額200円(ネット店舗

図表2-3-20 ▶d払い 利用イメージ(2018年4月報道発表時)



出所：NTTドコモ「お知らせ」新たなスマホ決済サービス『d払い』を提供開始(2018年4月24日)